宇都宮市立宝木小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

学力向上改善プランとの関連

⑴子どもの学ぶ意欲・学習習慣

○「本やインターネットを利用して，勉強に関する情報を得ている」と答えている児童は県の平均と比べて多く，読書環境の整備など読書活動の推進に取り組んできた成果が表れている。

○「学校の宿題は，自分のためになっている」「学習して身に付けたことは将来の仕事や生活の中で役立つと思う」「学習に対して，自分から進んで取り組んでいる」と答えている児童は，県平均よりやや高い。このことから，自分のために学習することの大切さを一人一人が意識し，多くの児童が進んで学習に取り組もうとしていることが分かる。

○「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考え方を深めたり，広げたりすることができている」という児童は，県平均と比べて高く，これまでに取り組んできた学びあい活動の成果が表れてきたと考えられる。

●「授業に集中して取り組んでいる。」と感じている児童が,県平均よりやや低い。そこで，児童が主体的に取り組む学習を各教科の学習を中心に増やし，進んで学習活動に参加できるようにしていくことにより，集中して学習に取り組む習慣を身に付けさせていきたい。

⑵教師の指導力

○「先生は学習のことについてほめてくれる」と考えている児童は県平均と比べて高い。「できた」「できない」だけでなく児童自身の頑張りや成長を認めてあげられる場面づくりや言葉かけを意識してきた成果といえる。

○「宿題は，やりたくなる内容だ」と考える児童は，県平均と比べてやや高い。このことは，教師が児童のやる気を起こす教材開発の成果と考えられる。特に「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」児童の肯定的回答率は８１．８％で県の平均を９．９ポイント上回っており，算数の学習で大きな成果をもたらしていると思われる。

●「授業の中で，目標（めあて・ねらい）が示されている」「授業で扱うノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」と答えた児童が県平均をやや上回った一方，「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」と答えた児童は県平均を下回っている。また，国語・算数・理科の学習において「授業の内容はよく分かりますか」に対する児童の肯定的回答も県平均をやや下回っており，学習過程の見直し・改善を進めることで，児童にとって「分かる授業」を積極的に実践していきたい。

⑶保護者の理解・協力

○「家で学校の宿題をしている」と答えた児童は県平均と比べてやや高く，「家で勉強するときに，だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」と答えた児童は，県平均と１１．８ポイント高い。これは，家庭で勉強しやすい環境を整え保護者の励ましなどの協力があるからだと考える。「自分は家族の大切な一員だと思う」と肯定的回答をした児童が多いことからもそのことがうかがえる。引き続き学年だよりなどで家庭での学習の大切さと連携・協力を呼びかけていきたい。

●「家で，学校の授業の復習をしている」「家で，テストで間違えた問題について勉強をしている」と答えている児童は，県平均を大きく下回っている。宿題だけでなく，個に応じた家庭学習に取り組むことが学習内容の定着にもつながるため，家庭学習カードや学年だより等を活用し，復習やくり返し学習の大切さを保護者にも伝えていきたい。